

観光地における新型コロナウイルス対策について

問①

更科 浩司 議員



新型コロナウイルスの沈静化に伴い、小清水町の観光地にも人が増え、外国からのお客様も来町されること予想されますが、観光地における新型コロナウイルス対策について伺います。

答①

久保 弘志 町長

従業員のマスク着用や、対面式カウンターには透明ビニールやアクリル板の設置、出入り口での手指消毒など、北海道が推奨する「北海道スタイル」を実践し、ポスターの掲示により来町者にもご協力をいただくこととしています。

また、外国からの来町者への周知については、同様に「新北海道スタイル」の外国語版ポスターを掲示するなどにより対応しています。

シカ被害対策について

問①

更科 浩司 議員

以前、猟友会による駆除などの回答をされていましたが、今までの方法以外での被害防止対策についてお聞きします。

答①

久保 弘志 町長

エゾシカ被害防止対策は北海道や近隣市町による広域的な取り組みが必要であり、猟友会の駆除のほか、「囲い込み罠」による一斉捕獲などがありますが、これについても広域的な対策が効果を上げるものと考えられていますので、JAを中心とした町内関係者と斜里郡3町、オホーツク管内含め、対応策について検討していきたいと考えています。

問②

更科 浩司 議員

小清水町は国有林が多く、囲い罠についても国に協力してもらうよう要請していただきたいと考えます。また、東京農大でシカの研究をしている方の協力などを今後考えていかないのかお聞きします。

答②

久保 弘志 町長

国有林については森林管理署と協議をし、東京農大のお話もありましたが、関係機関やさまざまな方のご意見もいただきながら広域的にしっかりと取り組んでいきたいと考えていますので、ご理解いただきたいと思えます。

防災拠点型複合庁舎建設について

問①

瓜田 新一 議員



基本計画に基づき、防災拠点型複合庁舎の建設計画が進んでいますが、「にぎわい」機能の集約「防災拠点」など、感染が拡大しているコロナ禍でのリスク管理についてお聞きします。

答①

久保 弘志 町長

新しい庁舎の設計においては、日常時にも、非常時にも役立つ設備やモノ、アイデアの導入といった「フェーズフリー」の概念を取り入れ、感染症のリスクをできるだけ回避できる施設整備にあたっていきたいと考えています。

問②

瓜田 新一 議員

一方、現状の新型コロナウイルス感染症に対する対策としては、現庁舎や各公共施設においては感染拡大を防ぐよう飛沫防止や換気・消毒の実施のほか、国が示す「新しい生活様式」の実践励行など、可能な限りの対策を講じており、規制が緩和された後も気を緩めることなく、感染拡大防止に向けた施設管理等を実施していく考えです。

「にぎわい」のある空間の創出ということでスポーツジムが計画されています。スポーツジムでのクラスター感染が発生していますが、再度町長の考えをお聞きします。

河川整備について

問①

木戸 寛治 議員

市街地を流れる川について、堆積物による川底の上昇を危惧する声があり、さまざまな災害が想定されることから、町として河川整備の長期計画を所管する官庁などに提出・協議をすべきと考えますが、町長の考えをお聞きします。

答①

久保 弘志 町長

河川の現状は、中州や川幅の狭くなっている箇所、床下げが必要と思われる箇所もありますので、計画的な実施を要望し、流域が閉塞しないよう下流域を中心に木の剪定や流木の処理を行っておりませんが、市街地では未実施の状況となっております。

異常気象による災害発生を防ぐためにも河川管理を含む治水対策は重要ですので、国に対してはオホーツク圏活性化化成会の治水対策として要望し、河川管理者の北海道に対しては、毎年事業計画要望を提出する社会資本整備推進会議で事業調整を図っていただくな

観光地における新型コロナウイルス対策について

問①

更科 浩司 議員



新型コロナウイルスの沈静化に伴い、小清水町の観光地にも人が増え、外国からのお客様も来町されること予想されますが、観光地における新型コロナウイルス対策について伺います。

答①

久保 弘志 町長

従業員のマスク着用や、対面式カウンターには透明ビニールやアクリル板の設置、出入り口での手指消毒など、北海道が推奨する「北海道スタイル」を実践し、ポスターの掲示により来町者にもご協力をいただくこととしています。

また、外国からの来町者への周知については、同様に「新北海道スタイル」の外国語版ポスターを掲示するなどにより対応しています。

シカ被害対策について

問①

更科 浩司 議員

以前、猟友会による駆除などの回答をされていましたが、今までの方法以外での被害防止対策についてお聞きします。

答①

久保 弘志 町長

エゾシカ被害防止対策は北海道や近隣市町による広域的な取り組みが必要であり、猟友会の駆除のほか、「囲い込み罠」による一斉捕獲などがありますが、これについても広域的な対策が効果を上げるものと考えられていますので、JAを中心とした町内関係者と斜里郡3町、オホーツク管内含め、対応策について検討していきたいと考えています。

問②

更科 浩司 議員

小清水町は国有林が多く、囲い罠についても国に協力してもらうよう要請していただきたいと考えます。また、東京農大でシカの研究をしている方の協力などを今後考えていかないのかお聞きします。

答②

久保 弘志 町長

国有林については森林管理署と協議をし、東京農大のお話もありましたが、関係機関やさまざまな方のご意見もいただきながら広域的にしっかりと取り組んでいきたいと考えていますので、ご理解いただきたいと思えます。

防災拠点型複合庁舎建設について

問①

瓜田 新一 議員



基本計画に基づき、防災拠点型複合庁舎の建設計画が進んでいますが、「にぎわい」機能の集約「防災拠点」など、感染が拡大しているコロナ禍でのリスク管理についてお聞きします。

答①

久保 弘志 町長

新しい庁舎の設計においては、日常時にも、非常時にも役立つ設備やモノ、アイデアの導入といった「フェーズフリー」の概念を取り入れ、感染症のリスクをできるだけ回避できる施設整備にあたっていきたいと考えています。

問②

瓜田 新一 議員

一方、現状の新型コロナウイルス感染症に対する対策としては、現庁舎や各公共施設においては感染拡大を防ぐよう飛沫防止や換気・消毒の実施のほか、国が示す「新しい生活様式」の実践励行など、可能な限りの対策を講じており、規制が緩和された後も気を緩めることなく、感染拡大防止に向けた施設管理等を実施していく考えです。

「にぎわい」のある空間の創出ということでスポーツジムが計画されています。スポーツジムでのクラスター感染が発生していますが、再度町長の考えをお聞きします。

河川整備について

問①

木戸 寛治 議員

市街地を流れる川について、堆積物による川底の上昇を危惧する声があり、さまざまな災害が想定されることから、町として河川整備の長期計画を所管する官庁などに提出・協議をすべきと考えますが、町長の考えをお聞きします。

答①

久保 弘志 町長

河川の現状は、中州や川幅の狭くなっている箇所、床下げが必要と思われる箇所もありますので、計画的な実施を要望し、流域が閉塞しないよう下流域を中心に木の剪定や流木の処理を行っておりませんが、市街地では未実施の状況となっております。

異常気象による災害発生を防ぐためにも河川管理を含む治水対策は重要ですので、国に対してはオホーツク圏活性化化成会の治水対策として要望し、河川管理者の北海道に対しては、毎年事業計画要望を提出する社会資本整備推進会議で事業調整を図っていただくな